

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年8月3日
【四半期会計期間】	第46期第1四半期（自平成24年4月1日至平成24年6月30日）
【会社名】	株式会社オービック
【英訳名】	OBIC Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 野田 順弘
【本店の所在の場所】	東京都中央区京橋二丁目4番15号
【電話番号】	(03)3245-6500(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 経営企画室長 加納 博史
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区京橋二丁目4番15号
【電話番号】	(03)3245-6500(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 経営企画室長 加納 博史
【縦覧に供する場所】	株式会社オービック大阪本社 (大阪府大阪市中央区博労町三丁目5番1号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第45期 第1四半期連結 累計期間	第46期 第1四半期連結 累計期間	第45期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年6月30日	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高(百万円)	11,023	11,141	48,407
経常利益(百万円)	4,989	4,856	20,090
四半期(当期)純利益(百万円)	3,139	3,021	10,357
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,650	1,640	10,126
純資産額(百万円)	123,472	129,291	129,299
総資産額(百万円)	139,163	145,625	145,008
1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)	333.20	320.68	1,099.24
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	88.7	88.8	89.2
営業活動によるキャッシュ・ フロー(百万円)	1,933	4,560	12,205
投資活動によるキャッシュ・ フロー(百万円)	429	13	4,052
財務活動によるキャッシュ・ フロー(百万円)	1,648	1,648	3,297
現金及び現金同等物の四半 期末(期末)残高(百万円)	34,609	42,535	39,609

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、東日本大震災の復興需要等による内需が堅調に推移し、緩やかに回復しつつあります。しかしながら、欧州の債務問題は依然として不確実性が高く、中国の輸出も減少している上に、アメリカの景気回復にも減速感が強まっていることから円高の状態が続いており、景気は、なお先行きに対する不透明感が拭えない状況であります。

当情報サービス業界においても、企業のシステム投資に対する姿勢には依然として慎重さがみられ、厳しいビジネス環境が続いております。このような環境の中で、企業のニーズは「効率的でコストパフォーマンスの高い情報システム」にあり、さらなる顧客目線でのシステム提案が求められております。

当社は、このような状況の中、営業とシステムエンジニアが一体となってビジネスに対応する製販一体体制を強化するとともに、社員一人ひとりの成長を目指した社員教育に注力することで提案力の強化・生産性の向上を図り、顧客満足度を高めるべく努めてまいりました。

当社の主力である基幹系統合業務ソフトウェア「OBIC7シリーズ」は、会計情報システムを中心に販売・生産情報システムなどが様々な業種・規模の企業に幅広く求められました。一方、業種別システムでは、金融機関向けの不動産担保評価・管理システムや信用リスク管理ソリューション、そして案件ごとの進捗管理や採算管理が可能な「プロジェクト別採算管理システム」などが幅広く求められました。また、採算性の良いシステムサポート事業が安定的に伸長し、業績に寄与いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高111億41百万円（前年同期比1.1%増）、営業利益43億26百万円（同5.1%増）、営業外収益の減少により、経常利益は48億56百万円（同2.7%減）、四半期純利益は30億21百万円（同3.8%減）となりました。

今後も当社は、顧客第一主義のもと、よりコストパフォーマンスの高いシステム提案ビジネスに注力し業績の向上に努めてまいり所存であります。

セグメントの業績は次の通りであります。

(A)システムインテグレーション事業

製販一体での直接販売によって、リソースを意識しつつ、幅広いニーズを捉える顧客満足度の高い提案活動を続けております。その結果、主力の基幹系統合業務ソフトウェア「OBIC7シリーズ」は、会計を中心に、販売・生産情報システムなどが様々な業種・規模の企業で求められております。業種・業務別のソリューションにおいては、金融機関向けの不動産担保評価・管理システムなどが堅調に推移いたしました。一方、ハードウェアの販売は減少しております。

この結果、外部顧客に対する売上高は、63億77百万円（前年同期比2.2%減）、営業利益は23億97百万円（同1.8%減）となりました。

(B)システムサポート事業

当社の主力サービスであるシステムの「運用支援サービス」が順調に伸長しております。

この結果、外部顧客に対する売上高は、33億55百万円（前年同期比5.3%増）、営業利益は17億51百万円（同16.4%増）となりました。

(C)オフィスオートメーション事業

景況感の不透明さから中小企業の設備投資が低迷する中、引き続き、付加価値の高い業務用パッケージソフトの提案に注力しております。また、印刷サプライや家具などのオフィス用品の販売が堅調に推移しております。

この結果、外部顧客に対する売上高は、14億8百万円（前年同期比7.1%増）、営業利益は1億77百万円（同3.7%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は425億35百万円となり、前連結会計年度末に比べ、29億25百万円増加いたしました。各キャッシュフローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

（営業活動によるキャッシュフロー）

営業活動の結果増加した資金は、45億60百万円（前年同期比135.9%増）であります。これは主に、税金等調整前四半期純利益が46億48百万円計上されたほか、利息及び配当金の受取額が4億51百万円計上されたこと及び売上債権が13億46百万円減少した一方で、仕入債務が1億33百万円減少及び法人税等の支払20億31百万円が発生したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュフロー）

投資活動の結果増加した資金は、13百万円（前年同期は4億29百万円の減少）であります。これは主に投資有価証券の購入・売却により28百万円増加したことと、有形固定資産の取得・売却により14百万円減少したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュフロー）

財務活動の結果減少した資金は、16億48百万円（前年同期は16億48百万円の減少）であり、これは配当金の支払によるものであります。

なお、今後とも資金を企業の業績伸長のため有効に使用しつつ、「効率経営」に努めてまいり所存であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当社グループ(当社及び連結子会社)は、コンピュータシステムの先端技術分野で今後の事業の中心となる製品の研究開発を進めており、連結財務諸表を作成する当社のシステムインテグレーション事業においてのみ行なっております。

当社の研究開発活動は、システムインテグレーション事業の総合的な観点から、ネットワーク技術や通信技術、ハードウェアの新製品に対する検証、あるいはソフトウェアやミドルウェアに対する検証、インターネットやイントラネット等々の幅広い分野で研究活動を行い、「フレックスライブラリー」を充実させてまいりました。この「フレックスライブラリー」は、長年培ってきた豊富なノウハウとシステム技術を業種別業務別に分類・分析し、共通部品をツール化したもので、システム工数を大幅に削減し、顧客に対してコストパフォーマンスの高いシステムの提供が可能となるものであります。

当第1四半期連結累計期間における研究開発費の総額は3億28百万円であります。

当期における成果といたしましては、前年に引き続き当社主力製品である基幹系の統合業務ソフトウェア「OBIC7FX」の開発効率向上のための取り組みなど、また、顧客満足度向上のためのクラウド・コンピューティングによるシステム提供の準備も進めてまいりました。今後とも付加価値の高いソリューションの提案ができるよう努めてまいり所存であります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	39,840,000
計	39,840,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年8月3日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,960,000	同左	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数10株
計	9,960,000	同左	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成24年4月1日～ 平成24年6月30日	-	9,960,000	-	19,178	-	19,413

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 538,040	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,421,610	942,161	-
単元未満株式	普通株式 350	-	-
発行済株式総数	9,960,000	-	-
総株主の議決権	-	942,161	-

(注) 上記の「単元未満株式」には、当社所有の自己株式が9株含まれております。

【自己株式等】

平成24年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社オービック	東京都中央区 京橋2-4-15	538,040	-	538,040	5.40
計	-	538,040	-	538,040	5.40

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	41,609	44,535
受取手形及び売掛金	1 7,285	1 5,938
商品及び製品	93	75
仕掛品	614	626
原材料及び貯蔵品	79	102
その他	2,466	2,751
貸倒引当金	12	7
流動資産合計	52,136	54,022
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,650	3,612
土地	26,943	26,943
その他(純額)	333	307
有形固定資産合計	30,927	30,863
無形固定資産		
その他	66	63
無形固定資産合計	66	63
投資その他の資産		
投資有価証券	2 55,213	2 53,056
その他	6,670	7,624
貸倒引当金	5	4
投資その他の資産合計	61,878	60,676
固定資産合計	92,872	91,603
資産合計	145,008	145,625

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,847	2,713
未払法人税等	2,125	2,270
賞与引当金	2,162	2,580
役員賞与引当金	38	-
その他	3,277	3,450
流動負債合計	10,450	11,015
固定負債		
退職給付引当金	4,434	4,493
役員退職慰労引当金	689	691
資産除去債務	125	125
その他	9	8
固定負債合計	5,258	5,319
負債合計	15,709	16,334
純資産の部		
株主資本		
資本金	19,178	19,178
資本剰余金	19,530	19,530
利益剰余金	101,754	103,126
自己株式	9,792	9,792
株主資本合計	130,670	132,043
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	379	1,000
土地再評価差額金	1,751	1,751
その他の包括利益累計額合計	1,371	2,752
純資産合計	129,299	129,291
負債純資産合計	145,008	145,625

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	11,023	11,141
売上原価	4,525	4,396
売上総利益	6,497	6,745
販売費及び一般管理費	1 2,379	1 2,419
営業利益	4,118	4,326
営業外収益		
受取利息	305	5
受取配当金	113	176
投資有価証券売却益	5	10
持分法による投資利益	424	302
受取賃貸料	20	20
その他	32	51
営業外収益合計	902	565
営業外費用		
賃貸費用	30	30
その他	0	4
営業外費用合計	30	34
経常利益	4,989	4,856
特別利益		
固定資産売却益	-	0
特別利益合計	-	0
特別損失		
固定資産除却損	0	0
固定資産売却損	0	-
投資有価証券評価損	-	207
その他	0	0
特別損失合計	1	208
税金等調整前四半期純利益	4,988	4,648
法人税、住民税及び事業税	1,869	2,198
法人税等調整額	20	572
法人税等合計	1,848	1,626
少数株主損益調整前四半期純利益	3,139	3,021
少数株主利益	-	-
四半期純利益	3,139	3,021

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,139	3,021
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	264	1,047
持分法適用会社に対する持分相当額	224	332
その他の包括利益合計	488	1,380
四半期包括利益	2,650	1,640
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,650	1,640
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,988	4,648
減価償却費	88	79
持分法による投資損益(は益)	424	302
投資有価証券評価損益(は益)	-	207
退職給付引当金の増減額(は減少)	21	58
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	11	2
賞与引当金の増減額(は減少)	440	418
役員賞与引当金の増減額(は減少)	30	38
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	6
受取利息及び受取配当金	418	181
固定資産除却損	0	0
有形固定資産売却損益(は益)	0	0
売上債権の増減額(は増加)	1,080	1,346
たな卸資産の増減額(は増加)	2	17
仕入債務の増減額(は減少)	612	133
その他	153	57
小計	5,299	6,140
利息及び配当金の受取額	389	451
法人税等の支払額	3,755	2,031
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,933	4,560
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	426	0
投資有価証券の売却による収入	37	28
有形固定資産の取得による支出	39	15
有形固定資産の売却による収入	0	0
無形固定資産の取得による支出	0	0
その他	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	429	13
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	1,648	1,648
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,648	1,648
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	145	2,925
現金及び現金同等物の期首残高	34,754	39,609
現金及び現金同等物の四半期末残高	34,609	42,535

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理は手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第1四半期連結会計期間の末日は金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が第1四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
受取手形	49百万円	17百万円

2 投資有価証券

投資有価証券のうち私募社債12,000百万円については、一定の条件が整った場合に連帯保証人への貸付金となる「Quasi Consumption Loan Agreement(金銭準消費貸借契約)」を締結しております。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主要な費目と金額は次の通りであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
給料及び手当	897百万円	937百万円
賞与引当金繰入額	383	360
退職給付費用	32	36
役員退職慰労引当金繰入額	10	12
賃借料	92	92
減価償却費	46	38
広告宣伝費	275	292

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
現金及び預金勘定	36,609百万円	44,535百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	2,000	2,000
現金及び現金同等物	34,609	42,535

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

配当に関する事項

配当支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,648	利益剰余金	175円00銭	平成23年3月31日	平成23年6月30日

当第1四半期連結累計期間（自平成24年4月1日至平成24年6月30日）

配当に関する事項

配当支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,648	利益剰余金	175円00銭	平成24年3月31日	平成24年6月29日

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	システムインテ グレーション	システムサ ポート	オフィスオート メーション	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売 上高	6,522	3,186	1,315	11,023	-	11,023
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1	-	74	75	75	-
計	6,523	3,186	1,389	11,099	75	11,023
セグメント利益	2,442	1,504	171	4,118	-	4,118

(注)1. 「調整額」の75百万円は、セグメント間取引の消去の額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期連結累計期間（自平成24年4月1日至平成24年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	システムインテ グレーション	システムサ ポート	オフィスオート メーション	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売 上高	6,377	3,355	1,408	11,141	-	11,141
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1	-	79	81	81	-
計	6,378	3,355	1,488	11,222	81	11,141
セグメント利益	2,397	1,751	177	4,326	-	4,326

(注)1. 「調整額」の81百万円は、セグメント間取引の消去の額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動が認められないため、記載しておりません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動が認められないため、記載しておりません。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引の四半期連結会計期間末の契約額等は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動が認められないため、記載しておりません。

(企業結合等関係)

当社は平成24年2月7日開催の取締役会において、当社100%出資の連結子会社である株式会社オービックシステムエンジニアリング(以下、「OSE」とします。)及び株式会社オービックビジネスソリューション(以下、「OBS」とします。)の両社を吸収合併(以下、「本合併」とします。)することを決議し、合併契約を締結いたしました。

合併の概要は以下のとおりであります。

(1) 合併の目的

OSE及びOBSは、当社グループが提供するシステムインテグレーション事業において、当社からの委託加工業務を行ってまいりました。

この度、グループ事業のより一層の強化と経営のスピードアップを図るため、OSE及びOBSを吸収合併することといたしました。

(2) 合併の日程

合併決議取締役会日 平成24年2月7日

合併契約書締結日 平成24年2月7日

合併期日(効力発生日) 平成24年10月1日(予定)

本合併は、当社においては会社法第796条第3項に規定する簡易合併であり、OSE及びOBSにおいては会社法第784条第1項に規定する略式合併であるため、それぞれ合併契約承認株主総会を開催いたしません。

(3) 合併の方法

当社を存続会社、OSE及びOBSを消滅会社とする吸収合併方式で、OSE及びOBSは解散します。

(4) 合併後の名称

株式会社オービック

(5) 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)に基づき、共通支配下の取引等の会計処理を適用いたします。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	333円20銭	320円68銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	3,139	3,021
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	3,139	3,021
普通株式の期中平均株式数(株)	9,421,951	9,421,951

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年8月3日

株式会社オービック
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	原 一 浩 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	鈴 木 一 宏 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	新 居 伸 浩 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社オービックの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社オービック及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- () 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。